

資料編

I 1 学年授業実践①（指導案・ワークシート）

第1 学年 国語科学習指導案

展開場所 1 年1 組教室

1 単元名 なつのおもいでをはなそう

（主な教材：なつのおもいでをはなそう 教育出版）

2 本単元における言語活動

夏休み中に体験したことや、思い出に残ったできごとについて、絵や実物を見せながら話す。

（関連：〔思考力、判断力、表現力等〕A（2）ア）

3 単元について

（1）単元観

初めての夏休みを経験し、児童はたくさんの楽しい思い出ができていることと思われる。久しぶりの学校で、指導者や友達に話したいことがいっぱいあるだろう。ここでは、「なつのおもいで」として具体的な経験を話す。その際、絵や思い出の品（実物）を見せながら、姿勢や口形、声の大きさや話す速さに気を付けて伝える。また、聞く側として、友達の話の内容を受けて質問をしたり、感想を言ったりする。

（2）児童の実態

5月の連休明けから、学級全員の前で話す機会をもたせるために、朝の会で「日直のスピーチ」を設けている。5月は「自己紹介（名前と好きなものを話す）」、6月は「みんなにはなそう」の学習で描いた絵をスクリーンに映して、原稿を見ながら話した。7月は原稿なしで「好きな夏の食べ物」とその理由を話した。

学級の約束として、話を始めるときは「一組のみなさん。」と呼びかけ、聞き手が「はい。」と返事をしてから話し出すようにしている。また聞き手の約束として、静かに聞くこと、最後まで聞くこと、もしもよく聞こえなかったときは「もう一度お願いします。」と丁寧にお願いをすること、話が終わった時には敬意を表すために拍手をすることを指導してきている。

7月に、「話す・聞く」に関する意識をアンケートで調査した。

【話すことに対する意識】

①隣の人に話すのが好き 19人（79％）

好きではない 5人（21％）

②5～6人のグループに話すのが好き 22人（91％）

好きではない 2人（9％）

③クラスみんなに話すのが好き 19人（79％）

好きではない 5人（21％）

・話すのが好きな理由（自由記述）

（友達だから 5人 楽しいから 4人 仲よくしたいから 3人
みんなが拍手をしてくれるから 1人）

・話すのが好きではない理由（自由記述）

（親しくない人がいて話しづらいから 2人
クラス全体に話すのは恥ずかしいから 2人
隣の人が話してくれないから 1人）

【話すときに気を付けていること】（選択肢の中から○をつける）

・相手を見て 16人（66％）

・相手に聞こえる声の大きさで 15人（62％）

・よい姿勢で 14人（58％）

・絵や品物を見せながら 11人（46％）

- ・ ゆっくりと 10人(41%)
- ・ その他(自由記述)

(細かいところまで解説する ちくちく言葉を使わない 優しい声で話す 各1人)

この結果より、少人数・グループ・クラス全体と、相手の人数が変わっても、平均すると80%ほどの児童は話すことが好きと感じていることが分かった。しかし、話すときに気を付けることを具体的に意識していない児童が多いことも分かった。

なお、本学級には、発音を学ぶために「ことばの教室」に通級している児童がいる。本人が話すことを嫌がることはないが、周りの児童が聞き取りにくい場合が考えられる。相手に伝わりにくい場面では、文字で書かれた原稿を示すとよいことを本人に伝えておく。

(3) 指導観

ここでは、絵や思い出の品(実物)など、思い思いのものを持ち寄って話す。一人ひとりの話題によって異なるので、何を見せるか個別に支援しながら、効果的な方法を選ばせたい。

児童の実態より、自分の伝えたいことを効果的に話すには、どんなことを心掛けるとよいか分かっていない児童が多い。そこで、話すときに気を付けるポイントを分かりやすく示す。そして、話す練習の際に、聞いている友達から評価してもらい、自分の話し方を振り返らせる。

聞き手として、友達の話の内容を受けて質問をしたり、感想を言ったりする学習を行う。内容について質問や感想を言うためには、聞き手は集中して話を聞かなければならない。また、話し手は、質問や感想を受けることで、友達に聞いてもらっているという安心感や喜びを持つことができ、もっと話したいと感じるであろう。話し手と聞き手が互いに支え合って、話したり聞いたりすることを楽しいと感じられるような学習にしたい。

4 単元の見直し

- ・ 音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発音や発声に注意して話すことができる。

〔知識及び技能〕(1) イ

- ・ 身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕A (1) ア

- ・ 話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容をとらえて感想をもつことができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕A (1) エ

- ・ 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。

〔学びに向かう力、人間性等〕

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発音や発声に注意して話している。 (1) イ	①「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(A (1) ア)	①進んで、経験したことから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選び、学習の見通しをもって話そうとしている。

	②「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。(A (1) エ)	
--	--	--

6 指導と評価の計画 5時間扱い(本時4/5)

次	時配	学習内容と学習活動	指導上の留意点	評価規準(観点)【方法】
第一次	1	○指導者のモデルを見て、学習のねらいを知り、学習の見通しをもつ。 ○聞き手は質問をしたり感想を言ったりすることを知る。 ○夏休みのできごとを思い出して、隣の友達と交流する。	・指導者が実物を持って夏の思い出を話し、児童からの質問に答えるモデルを見せる。	・学習の見通しをもって、話す内容を考えようとしている。 (主体的に学習に取り組む態度①) 【観察】
第二次	2・3	○どんな発表をするのか話し合い、発表の内容を決める。 ○発表に必要なものを用意する。 ○原稿用紙に発表原稿を書く。 ○話すとき気を付けるポイントについて話し合い、自分で発表の練習をする。	・教科書の発表例や質問・感想を読んで、具体的なイメージがもてるようにする。 ・家庭に協力を頼み、思い出の品や写真を用意してもらう。 ・3文程度の発表原稿を書き、微音読等も行いながら読み返して完成させる。 ・姿勢、口形、声の大きさや話す速さをどのようにすると、相手に伝わりやすいか気付けるようにする。	・話題を決めて、発表原稿を書いている。 (思考・判断・表現①) 【原稿用紙】

	4 (本時)	○話し方のポイントができていないか友達同士でチェックしあいながら、発表の練習をする。	・原稿をできるだけ見ないで発表練習をするように声をかける。 ・話し方のポイントをチェックする用紙を使って、姿勢や口形、声の大きさ、話す速さを確認できるようにする。	・姿勢や口形、声の大きさ、話す速さなどに気を付けて話している。 (知識・技能①) 【観察】
第三次	5	○グループごとに「夏の思い出発表会」をする。 ○発表会を振り返り、カードに感想を書く。	・話すとき、聞くときのきまりや発表会の流れを確認する。 ・振り返りカードを使って、付いた力について確認できるようにする。	・友達の話に興味をもって聞き、感想をもっている。 (思考・判断・表現②) 【振り返りカード】

7 本時の指導（4/5）

（1）目標

- ・姿勢や口形、声の大きさ、話す速さなどに気を付けて話すことができる。（知識・技能）

（2）展開

時配	学習内容と学習活動	指導・支援 ○評価（観点）【方法】	資料
5	【見いだす】 1 本時の学習と学習のめあてを知る。	・学習計画表をもとに、本時の学習と学習のめあてを確認する。	学習計画表
	はっぴょうの れんしゅうを ともだちに みてもらって、はなしかたを たしかめよう。		
5	【自分で取り組む】 2 話すときに気を付けるとよいことを確認し、自分で練習する。	・前時で作成した「話すときに気を付けること」の掲示物をもとに確認して練習を始める。	「話すときに気を付けること」掲示物
30	【広げ深める】 3 4人組のグループに分かれて、順番に発表の練習をする。 ・1人当たり7分間を練習時間とする。 ・話す人と聞く人を交代して4回行う。（7分間×4人）	・前もって決めた順番に従って、発表の練習をする。 ・目安になるようタイマーをかけ、7分間経ったことを知らせ、役割交代の声かけをする。 ・「話すときに気を付けること」チェック表の項目を、3人それぞれに1項目ずつ分担して、何を見ればよいか明確にする。 ①原稿を見ないで、相手を見て	

5	・ 1 人の話が終わったら、聞き手の児童は担当の内容でよかったことを伝え、さらによくなるようにアドバイスできるようにする。 【まとめあげる】 4 本時の学習を振り返る。次時は何に気を付けて発表するのか、各自確かめる。	いるか ②姿勢はよいか ③声の大きさ・速さはちょうどよいか ※「ことばの教室」通級児童の話し方チェックをするグループの児童には、聞き取れない場合は、原稿を見せてもらうように伝えておく。 ○姿勢や口形、声の大きさ、話す速さなどに気を付けて話している。 (知識・技能①) 【観察】 «「努力を要する」と判断した児童への手立て» ・友達からのアドバイスをもとに、修正しながら、繰り返し練習を行うように助言する。 ・ 自分が上手にできたところや、本番で気を付けるところ、友達の話し方のよかったところなどが書ける振り返りシートを用意する。	振り返りシート
----------	---	--	----------------

(3) 板書計画

ふりかえり	はなすときに きをつけること ・ あいてをみて (げんこうをみない) ・ しせいよく ・ ちょうどよいこえのおおきさで ・ ゆっくりと ・ しなものや えを みせながら	なつのおもいでをはなそう はっぴょうの れんしゅうを ともだちに みてもらって、はなしかたをたしかめよう。
--	--	--

はなすとき「きをつけて」

○はなすとき どんなことに
きをつけると よいのかな？



	きをつけて
だれを みながら	あいてを みて (かみを みないで)
しせい	たって、せすじをのばして、 あいてに からだを むけて
こえの おおきさ	あいてに きこえる おおきさで
はなす はやさ	ゆつくりと
	え・しゃしん・しなものを みせながら

II 1 学年授業実践②（指導案・学習計画・ワークシート）

第1学年 国語科学習指導案

1 単元名 はじめてしまった学校のこと

2 本時の指導（4／8）

（1）目標

- ・自分の聞きたいことを丁寧な言葉になるよう考えながら質問をしている。（思考・判断・表現）
- ・聞きたいことを落とさないように集中して聞き、理由も聞けるよう練習し、自信を持つ。（主体的に学習に取り組む態度）

（2）展開

時配	学習内容と学習活動	指導・支援 ○評価（観点）【方法】	資料
5	1 前時のふり返りをし、本時のめあてをワークシートに書く。	・授業開始前からグループごとに座り、前時のワークシートを配付しておく。 ・本時のワークシートを配付する。	学習計画表 前時のワークシート 本時のワークシート
	はなしかたやききかたに気をつけて、れんしゅうしよう。		
5	2 話し方や聞き方のどのような点に気を付けたらよいか考える。	・ワークシートにある、チェック項目をおさえ、具体的にどのようなことか例を交えて説明する。自己評価であり、練習の後に評価をする時間をとることを伝える。 〔チェック項目〕 ・集中して聞く。 ・理由を聞く。 ・丁寧な言葉で聞く。 ・2つのグループのデモンストレーションを見せることにより練習の仕方がわかるようにする。	
5	3 練習の仕方を知る。	・練習の仕方 2つのグループで練習をする。片方のグループが練習をするとき、もう片方のグループのうち一人が先生役となり、質問に答える。そのほかは横に座りその様子を見る。終わったら	

15	4 各グループで練習をする。	役割を交代し、練習をする。どちらのグループも終わったら、先生役を変えて練習をする。 先生役は、想像で質問に答える。 ・場所に帰りグループごとに練習を始める。 ○丁寧な言葉になるよう、考えながら使っている。(思考・判断・表現)【練習態度】 ○本時のチェック項目3つをクリアしようと意識して練習している。(主体的に学習に取り組む態度)【練習態度】	
10	5 ふり返り。 ・本時のワークシートのチェック項目に従って、自分の質問の仕方や聞き方はどうだったかふり返り、チェックをする。 ・自分の言葉で本時の練習についてふり返りを書く。	・ふり返りの文章を2・3人に発表してもらい、全員が言葉でふり返りの文章を書くことができるようにする。 ○自分の質問の仕方をふり返り、次に生かそうとしている。(主体的に学習に取り組む態度)【ワークシート・自由記述】	

(3) 板書計画

学習計画	○ふりかえり	ここがだいじ	はじめてしつた学校のこと はなしかたやききかたに気を つけて、れんしゅうしよう。
---	---------------	---	---

Ⅲ 6 学年授業実践①（指導案・ワークシート）

第 6 学年 国語科学習指導案

展開場所 6 年 1 組教室

- 1 単元名 オリジナルストーリーを作ってみんなに紹介しよう
（主な教材：あなたは作家 教育出版）

2 本単元における言語活動

写真から想像を膨らませて、文章全体の構成や展開を考えて物語を書く。

関連：〔思考力、判断力、表現力等〕 B(2)ア

3 単元について

（1）単元観

写真から浮かぶイメージを手がかりに物語の筋道、内容、表現などを工夫しながら想像した世界を、「始まりの場面」「展開の場面」「やま場」「終わりの場面」という 4 つの構成でまとめて書いた物語を紹介し合うものである。本単元では、これまでの読書経験や生活体験など、その時々的情景や自分自身の心情などを生かすことができる。読書経験の豊富な児童は、読書経験を生かし、物語の設定や構成、表現の仕方を工夫して意欲的に学習に取り組むであろう。

また、自分で物語を設定し、「やま場」を作り出すことは、今後の読書生活を豊かにすると考える。6 年間で学んだことを生かして物語を書く活動を行うことで、今後の読書生活の礎としたい。

（2）児童生徒の実態

「書くこと」に関しては、6 年時「考えを図や表に」の学習で、集めた材料を分類したり、関係付けたりして伝えたいことを明確にして表現する学習を行った。また、「みんなで作ろうパンフレット」の学習では、立場を明確にして主張する学習を行った。上記の学習や、普段の学習から以下の良さや課題が見られた。

- ・ 普段から一人ひとりがしっかり自分の意見や考えをもつことができる。
- ・ 自分の考えに対する理由付けや根拠となる資料を意欲的に調べたり、友達と共有したりすることができる。
- ・ 自分が考えたことを相手に簡潔に分かりやすく明確に表現することに苦手意識を感じている児童が多い。
- ・ 自分が伝えたいことを、内容のまとまりを考えたり、相互関係を意識して表現したりすることを苦手としている児童が多い。
- ・ 普段から物語に親しんでいる児童が多い一方で、文章を読むことに苦手意識を感じている児童も一定数いる。語彙力や文章の表現力に差がある。また、想像力に関しても個人差がある。

(3) 指導観

- ①児童自身が単元を通して学ぶ目的をもち、見通しをもって言語活動を進めていく必要がある。そこで、学習の導入においては、教員が言語活動のモデルを見せ、単元のゴールイメージを具体的に示し、児童と一緒に単元計画を作り上げる。単元全体の学習の見通しをもつことで、主体的に学習に取り組めるようにしていく。また、誰にどのような形で紹介するのか、児童と一緒に考えることで、相手意識をもって書く活動を行うことができるようにしていきたい。
- ②「オリジナルの物語を書いてみたい。」「こんな物語にしようかな。」といった書く活動に対する意欲を高め、持続していくために、教員のモデルを児童の能力に合わせて2パターン作ったり、既習の物語文の中心人物や話の展開を確認したりすることで、「自分でも書けそうだな。」という気持ちをどの児童ももつことができるようにする。
- ③グループで伝え合う時間を設けることで、自分の考えに深まりや広がりをもてるようにする。また、友達に認めてもらうことで、自信をもって物語を書くことができるようにする。
- ④構成を考えたり、簡潔に伝えたりすることが苦手な児童が多いため、構成メモを自由に動かせるようにする。自分で確認したり、友達と交流し合ったりする中で、物語の内容や構成を練り、相手に伝わるように文章を書くことができるようにしていきたい。

4 単元の見目標

- ・文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解できる。〔知識及び技能〕(1)カ
- ・筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えて書くことができる。〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)イ
- ・積極的に、物語の特徴について理解し、写真から想像を広げ、展開を考えて物語を作ろうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。 (1)カ	①「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。 (B(1)イ)	①積極的に、物語の特徴について理解し、写真から想像を広げ、展開を考えて物語を作ろうとしている。

6 指導と評価の計画 6時間扱い（本時 2／6）

次	時配	学習内容と学習活動	指導上の留意点	評価規準（観点）【方法】
第一次	1	○教員のモデルを見て、学習のゴールのイメージをつかむ。 ○単元計画を作る。	・物語を創作することを伝え、活動の具体的なイメージをもてるようにし、児童の意欲を高める。 ・児童と一緒に単元計画をすることで、めあてや学習の見通しがもてるようにする。	物語の特徴について理解し、物語を作ろうとしている。 （主体的に学習に取り組む態度①） 【観察】
第二次	2 本時	○物語の設定を考える。 ・主人公の設定を考える。 ・物語の時や場所を考える。 ・物語の大体を考える。	・教員のモデルを活用し、人物設定の仕方を確認する。 ・友達と意見を交流することで、さらに良いアイデアを考えられるようにする。	物語の特徴について理解し、写真から想像を広げ、展開を考えて物語を作ろうとしている。 （主体的に学習に取り組む態度①） 文章全体の構成や展開を考えている。 （思考・判断・表現①）
	3	○物語を組み立てる。 ・場面を分けて組み立てメモを作る。 ・友達と交流し合い、考えを深める。	・物語の内容や構成について、相手に分かりやすく伝えられるよう、構成メモを自由に動かせるようにする。	構成メモにまとめている。 （思考・判断・表現①） 【構成メモ】 積極的に、物語の特徴について理解し、構成を見直している。 （主体的に学習に取り組む態度①） 【構成メモ・観察】
	4 5	○物語を書く。 ○物語を読み返す。	・既習の文学作品や誰もが知っている物語を例に、表現の工夫によってどのような効果があるのか確認する。 ・構成メモをもとに、書き出	文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。

			しや情景描写等の工夫を入れて物語を書くことができるようにする。 ・自分で読み返したり、友達に読んでもらったりすることで、修正を加えながら完成できるようにする。	筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。 （思考・判断・表現①）【物語文】
第三次	6	○作品を紹介する。 ○振り返りを行う。	・友達の文章を読んで、想像を広げる。	物語の特徴について理解し、写真から想像を広げ、展開を考えた物語を味わっている。 （主体的に学習に取り組む態度①） 【振り返り・観察】

7 本時の指導（2／6）

（1）目標

- ・創造力を働かせ、文章全体の構成や展開を考えることができる。
 （思考力・判断力・表現力等）
- ・物語の特徴について理解し、写真から想像を広げ、物語の大体を考えて物語を作ろうとしている。
 （学びに向かう人間性等）

（2）展開

時配	学習内容と学習活動	指導・支援 ○評価（観点）【方法】	資料
5	【見いだす】 1 本時の学習と学習のめあてを知る。 ・提示された資料等から学習問題が分かり、自分なりの課題を明確にする。 2 写真から、どのような物語ができるか話し合う。	・前時で作った単元計画とめあてを確認し、物語を作る意欲をもてるようにする。 ・3人組で、気付いたことや感じたことなど自由に話し合うことで、想像を広げることができるようにする。	学習計画表 写真
	友達と伝え合って考えを深め、設定メモを作ろう。		

20	自分で取り組む】 3 物語の設定を考える。 ・解決の見通しをもち、自分で考え、粘り強く課題に取り組む。 ・中心人物の設定を考える。 ・物語の大体を考える。 ・物語の細かい設定を決める。	・みんなが知っているキャラクターを例に、全員設定メモを作り上げることで、学習の流れを全員が把握できるようにする。 ・設定メモを書くことで、物語を書くために必要なことを明確にできるようにする。 ・あらかじめ、グループにして友達と伝え合い環境を整えることで、考えの途中でも、友達に意見を求めることができるようにする。 ※考えが浮かばない児童に関しては、あらかじめグループにしておくことで、いつでも友達に相談できる環境を整える。 ○写真から想像を広げ、展開を考えて物語を作ろうとしている。 (主体的に学習取り組む態度①) 【設定メモ】	設定メモ
13	【広げ深める】 3 グループで伝え合い、中心人物の設定や話の大体の展開について考えを深める。	・「自分が考えた設定の紹介」と「設定メモを作る上で友達に相談したいこと」の2点にしばって話し合いを進めることで、自信をもって物語が書くことができるようにしたり、考えを深めたりことができるようにする。 ・「物語の設定を考える」時のグループのメンバーとは別にすることで、さらに考えを広げられるようにする。 ・友達の意見を聞いて、設定メモが変わった場合には、付箋を使ってつけたしをする。	設定メモ 付箋
創造力を働かせ、文章全体の構成メモにまとめている。 (思考・判断・表現①) 【構成メモ】			

5	【まとめあげる】 4 本時の学習を振り返る。	・自分の言葉でまとめを書くことで、自己分析を行い、次時への意欲がもてるようにする。	自己評価表 振り返りカード
2	5 次時の学習について確認する。		学習計画表

(3) 板書計画

設定メモの書き方	単元計画表と評価	④ 友達と伝え合って考えを深め、設定メモを完成させよう。	オリジナルストーリーを作ってみんなに紹介しよう
	単元のゴール（教師モデル）		

学習計画表

③	②	①	評価	6	5	4	3	2	1
表現を工夫して文章を書くことができたか。	友達と伝え合いの中で、自分の考えを深められたか。	物語の設定や構成を考えることができたか。		○文章を紹介し合う。 ○図書室に展示する。	○物語を書く。	○物語を書く。	○物語の構成を考える。	○登場人物の設定を ○テーマ・物語の骨組みを考える。	○単元のゴール知る。 ○学習計画を立てる。

設定メモ 名前 ()

どれに集中して物語を書くか。

登場人物 (中心人物)		登場人物	
名前		名前	
年齢		年齢	
設定 (性格など)		中心人物との関係	
		設定 (性格など)	

時	
場所	
大まかなあらすじ	はじめの中心人物の姿 きっかけ ↓ 終わりの中心人物の姿

「えーん。虫がこわいよお。」

れいなは今日も朝から泣いています。朝の支度中に小さな虫が出たのです。こんな自分をどうかしたいと思っているけれど……。

「はあ。今日もやっちゃった……。」

学校からの帰り道、いつものように歩いていると、何かがこちらに近づいてくることに気づきました。風船です。その風船は、ふわりとれいなの手の上に舞い降りました。なんだかあやしい光を放っています。

「いやだ。こわい。」

いつものように泣き出しそうになりましたが、風船にふれると、まるで太陽のように心があたたかくなりました。れいなは不思議な気分、風船を持ち帰りました。

風船を部屋の窓辺にそっと置きました。しばらく眺めていると、突然まばゆい光がれいなをつみしました。その光の中からかわいらしい妖精が現れた。

「わたしを見つけてくれてありがとう。お礼にあなたの願いを叶えてあげる。」

「そんなことができるの。あ、あのね……。」

れいなは戸惑いながらも、妖精に願いを叶えてほしいと頼みました。

「わたしにまかせて。」

そう言うと、風船とともに、空高く舞い上がりました。

「わあ。すごい。まるで鳥になったみたい。」

れいなは未知の世界へと足を踏み入れました。風船は優しくゆれ、星がきらめく夜空をたどいながら、れいなの中に勇気を注ぎ込んでいきます。

「前に進むのよ。あなたの心の中にある強さを信じて。」

妖精の声が風船とともに、れいなの中に響きました。

高い崖が現れました。

「さあ。れいな。この高い崖を登ってみて。」

れいなは風船をつかんで一歩踏み出します。風が強く吹き、風船が揺れ始める中、れいなは驚えながらも決意を固めます。「私にもできるはず！」

勇気をふりしぼり、れいなは風船しがみつき、頂上を目指して登っていきます。けれど、途中で足元が揺れ始めました。

「こわい。どうしよう。わたしにはできない。」

れいなが顔をへいけがにようにゆがんだ時、

「あきらめないで。」

妖精の声が響き渡りました。そして崖の頂上に届く光が見え始めます。

「まだあきらめるわけにはいかない。」

自分に言い聞かせます。最後の一步。風船が彼女を支え、崖を超えることができました。れいなはそのまま地面に倒れこみました。

目を覚ますと家のベッドの上にいました。

「さあ。願いは叶えたよ。」

「え？」

妖精に言われてれいなは目を見開きました。たしかに今までの泣き虫のれいなはどこにもいません。そう、れいなは自分で泣き虫を克服したのです。

あやは小学六年生。バスケが大好きで、近所のクラブチームに所属して、夏の大会に向けて練習をしているところだ。あやはそのクラブチームのキャプテンだ。キャプテンとしても、その夏の大会では絶対勝ちたいと思っている。だからこそ、練習の時には口調も強くなっていた。

「ねえ、もっとパスをつないでチームで戦おうよ。こんなじゃ勝てないよ。」

あやはチームのみんなに言った。

「パスもいけど、もっとシュートが決まらないと意味がないよ。」

「キャプテンだからって勝手に意見を押し付けないで。」

チーム内で意見が対立し、どんどん険悪な雰囲気になっていった。

どうしよう。どんなチームがばらばらになっていく。あやの心はまるで地球がのしかかったように重くなっていった。気が重いまま歩いていると、風船が飛んできた。その風船はあやの目の前で止まる。すると、風船はまばゆい光を放ち、あやをつんだ。光はとてもあたたかくて、あやの重い心まであたたかくしていった。気がつく、なんだか気持ちが軽くなっている。

「よし、明日もう一度みんなに話してみよう。」

次の日、あやはみんなに言った。

「みんな、この前はごめん。もっとみんなと話し合えばよかった。これからは、みんなで意見を話し合って考えていきたいと思う。」

「やっぱりパスも大事だよな。」

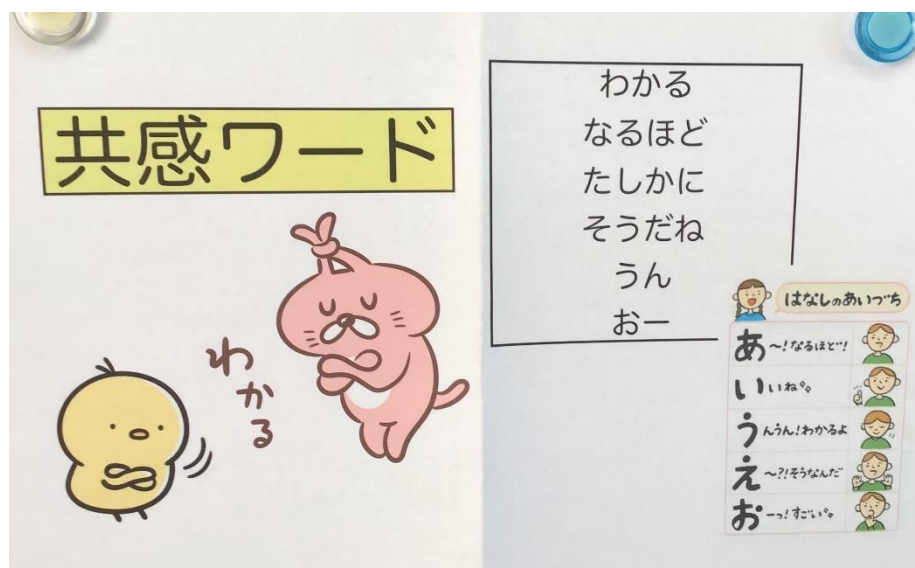
「でも、シュートが決まらなきゃもったいないよね。」

「そしたら、パス練の後に、シュート練習もたくさんやろうよ。」

「賛成！」

チームのみんなの顔をさりと光る。それにつられてあやも笑顔になる。体育館にはみんなの明るい声が響いていた。

夏の大会。あやのチームは見事優勝。みんな満足げな表情でメダルを受け取る。みんなが意見を話し合えるようになってあやのチームはさらに強くなった。



第2学年 研修の記録

単元名 しつもんしたり答えたりして、つないで話し合おう（話す・聞く）
（教材名） 「クラスお楽しみ会」をひらこう

《仮説①に対する手立て》

○考えをもちたい・話し合って決めたいという意欲が沸く議題の設定

決められたら楽しいこと（今回は「クラスお楽しみ会」）、児童にとってお得なことを議題にした。

○話し合いで決めたことは、実際にやってみる

話し合いそのものが児童の目的ではないため、実際にやってみて、「また話し合いたい！」と意欲をもたせることが大切。

○単元のゴールの提示

4人での小グループの話し合いによって、「提案を一つに決めること」「10分以内に」と目標を明示した。そうすることで、話し合い参加者は一つに決められれば満足度が上がった。

○自分の考えや理由に自信をもたせる

提案と提案理由は前時に担任が確認し、ノートに全員花丸をつけて自信を持たせた。
前時に書いた児童の提案と提案理由は、全て否定せず、話し合い当日に理由を述べ合うことによって淘汰されるようにした。前時に、児童間で話し合ったり相談し合ったりはせず、話し合い当日に理由を述べ合うことによって、淘汰されるようにした。自分の考えが書けない児童は、黒板を使って提案の例を示し選択させた。

《仮説②に対する手立て》

○話し合い形態の工夫

発達段階を考慮して、3～4人の小グループで話し合った。
司会係を決めた。記録係は決めなかった。
話し合いグループは、担任が組んだ。
司会のできる人を分散させる、発言できる人を分散させる、個々の提案が重ならないようにした。話し合いは3回実施した。1人1回は司会ができるように。一度司会を経験すると、グループでの話し合いがまとまりやすい。一つに決めるときには、「拍手で終わること」「じゃんけんで決める×」「多数決で決める×」とした。
教員ではなく司会者が進めるため、話し合い中は丁寧な言葉でやりとりすることとした。
司会者に権限をもたせ、「1つに決まれば、司会者のおかげで話し合いの学習は成功！」とした。

○話し合う議題の工夫

全3回の話し合いにおいて、自分の提案への思い入れが強いと決まらないため、決まりやすい議題を段階的に設定した。（第1回「今月の目標」、第2回「12月の人権標語」第3回「クラスお楽しみ会のレク」）

基本的には1つに決める（誰の提案がよいか選ぶ）ことを目的とした話し合いであって、言葉を集めてくっつけたり、新しい文章や提案を生み出したりすることは期待しないという前提で進めた。

○司会者を育てる

司会者がある程度、話し合いを取りまとめるよう、前時・当日に指導した。

司会者には、司会者原稿を渡した。A3サイズで、グループ全員が覗いて確認できるようにした。

司会者には、話し合いが行き詰まったら、「隣と1分間相談してください。」「本当にできますか。」

「～はどうしますか。」のように、問い返したり理由を聞いたりして、話し合いが一つにまとまるようアドバイスした。

○「しりとり」の法則」の活用

NHK for school「お伝と伝じろう（おつたとでんじろう）」の動画を視聴し、話し合いを客観的に見たときに、「どうしたら伝わるか」事前に学習した。視聴動画『#4 会話のキャッチボール』

○付箋や思考ツールの活用

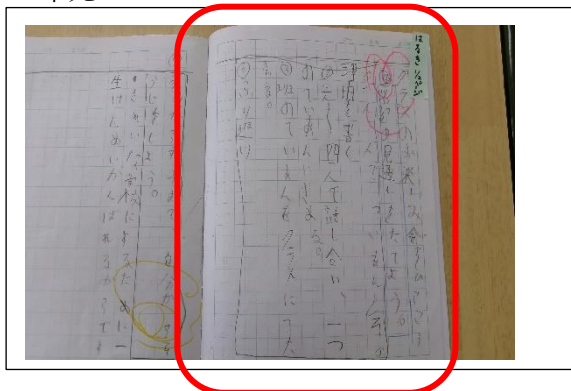
1人1枚付箋に提案を書き、ピラミッドチャート（縦に3段階の部屋）を使って話し合い、提案を一つにまとめる方法を実践した。NHK for school「しまった！～情報活用スキルアップ～」の動画を視聴し、話し合いを客観的に見て、全員の意見を見ながら整理したり、話し合ったりするには、どうしたらよいかを事前に学習した。視聴動画『#8 1人1台端末活用編（2）共同編集で考えをまとめよう』

付箋の書き方、ピラミッドチャートの使い方は、他教科や国語科の別単元でも実践していた。

国語科「みじかいことばで」や生活科「町たんけん」の単元でも、付箋や思考ツールは活用していたため、児童にとって使い慣れていた。

授業の実際

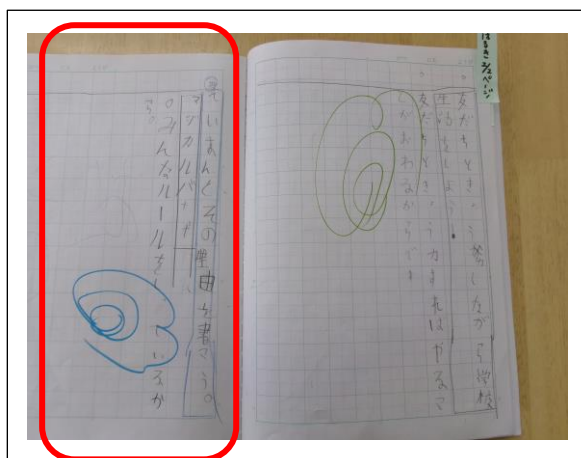
《単元のゴール》



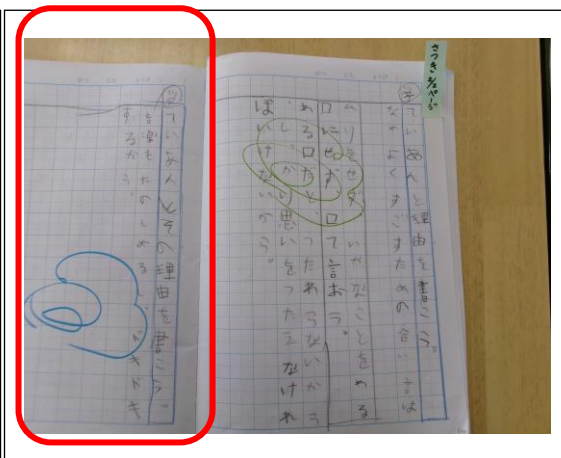
授業の最初に、単元のゴールを見通すことで、話し合いによって一つに決める学習とはどのようなものか、イメージすることができた。

《ワークシート・ノート》

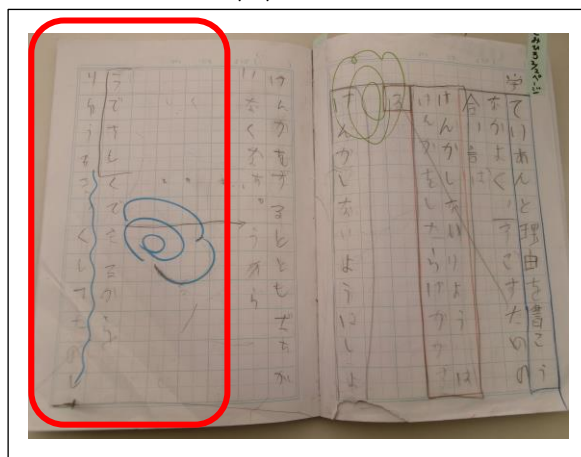
高位



中位



低位



ノートに花丸を付けて、提案と提案理由に自信が持てるようにした。

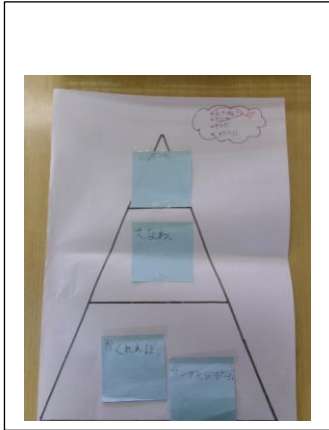
《話し合いの様子》



ノートに、提案と提案理由を書いたので、読むだけで話し合いやすくなった。

3～4人グループで話し合った。司会係はいるが、記録係はあえて立てなかった。

《思考ツール・付箋》



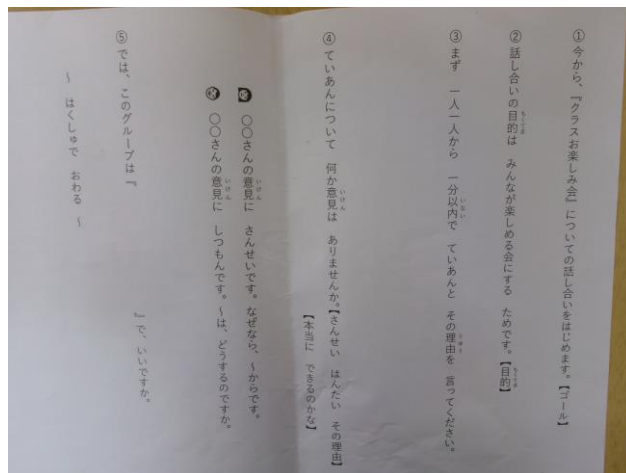
付箋は、今は使い慣れたが、最初是一个の付箋に一つの内容だけを書く、キーワードで書く、などの指導が必要。

縦に3部屋あるピラミッドチャートなら、3人グループより4人グループの方が決まりやすい。

話し合いにおいて、思考ツールは使用した方がよい。視覚的に話し合いの流れが把握できる。

《台本》

第三回の話し合い用



台本があった方が、司会も安心であるが、グループのメンバーも今、どの話し合いまでできたか確認できるため、あった方がよい。

<成果>

○付箋活用とピラミッドチャート活用が、効果があった。視覚的にもわかりやすかった。

○思考チャートは、目的に合わせて選ぶ必要があるなので、慎重に選ぶと効果的である。

- ・ 順序を決める → ステップチャート
- ・ 分類する → XYチャート
- ・ 比較する → ベン図、田の字チャート
- ・ 焦点化・1つに決める → ピラミッドチャート

○4人グループ編成で、ピラミッドチャート（縦に3段階の部屋）の採用が成功した。たとえ自分の提案が通らなかったとしても、妥協できるらしい。

○つないで話し合うときには、「しりとり法則」は、意見が言えない人ほど効果的であった。

○板書にまとめたとおり、一つに決めるときには、理由が大事である。そのため、「なぜかという」と「どうしてかという」とを使うと話し合いがまとまりやすくなった。

- 場面緘黙など話すことができない児童は、4人グループの5人目として、見学した。
- 「理由は～だからです。どうですか。」「いいですね。／ほかにも意見があります。」の流れは、普段の授業や学級活動でも実践していたため、自然にあいづちや拍手が出た。
- 話の途中に割り込まず、最後まで聞いた。小グループであっても、手を挙げて司会者に指名してもらってから発言できた。普段の授業と同じ流れであったため、自然にできた。

<課題>

- ▲同時に7グループの話し合いを展開すると、教員はさすがに見切れない。把握できない。
そのため、司会指名や話し合いグループ編成は、教員が考えた。仕組んだ。
一方、児童は7グループの話し合い展開の方が楽に話したり聞いたりできるとのこと。
- ▲話し合いが深まる、または進展する、意見を言ってくれた人に続いて、司会者がすかさず言葉を拾って、「○さんは～と言っていますが、△さんは～についてどう思いますか。」と聞ければ、話し合いはまとまりやすいし、焦点化しやすい。つまり、話の聞き方が苦手グループほど司会が重要である。
- ▲話し合い途中、丁寧な言葉遣いができていないグループには、指導した。
「ねえねえ」× 「これがいいよね～」×
- ▲話し合い途中、最後まで話を聞かない司会者には、指導した。
「遅いんだけど～」× 「見せて！わたしが読むね」×

第3学年 研修の記録

単元名 「気持ちを伝える達人になるために～話し方・聞き方キャッチコピー～をつくろう」
(教材名) 気持ちを伝える話し方・聞き方

《仮説①に対する手立て》

○単元のゴールを見せる

単元の始めに、ゴールで作成する物の見本である「クラスのキャッチコピー」を確認させ、児童に見通しを持たせた。この単元の流れは、どのようになっているのかを確認した。

○伝え合う内容のポイントをはっきりとさせた。

自分が伝える内容を、どのような工夫をして伝えれば良いか文章にして、視点をはっきりとさせた。

○伝え合う内容をタブレットで映像化した。

内容が伝わるように映像を撮り、相手に伝わるかどうか確認・修正できるように取り組ませた。

○「気持ちを伝える名人になるためのキャッチコピー」作りは、グループで自分の意見を出し合った。

まずは、ノートに自分でキャッチコピーを考えて書き、その後はグループでの話し合う場を設けて皆の意見を聞き合い、より良いキャッチコピーを作れるようにした。

《仮説②に対する手立て》

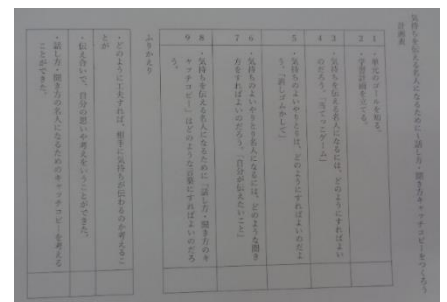
○伝え合いの形態の工夫

映像での伝え合いは、ペアでしっかりと見合うことで相手の伝えたいことがより確実に伝わっていた。同じ項目での映像を1回目の交流後、改善してさらに相手に伝わりやすくするために映像を取り直して、2回目の交流をすることで児童の意欲も高めながら伝え合いをすることができた。

動作化での伝え合いもペアで確実に相手に「話す」「聞く」の二役をすることで、感じ方の違いもしっかりと認識できた。

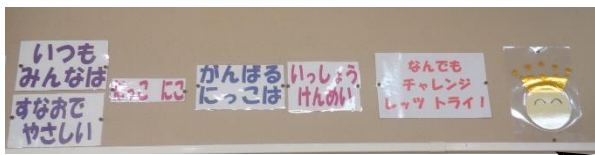
○伝え合いの場「当てっこゲーム」を設定

クイズ感覚で答えられるように、「当てっこゲーム」という名の伝え合いの場を設定することで、苦手意識を持っている児童も進んで発表できるようにした。また、よく見ていないと答えられないので、必然的に相手の伝えたいことを積極的に聞くような形式にした。



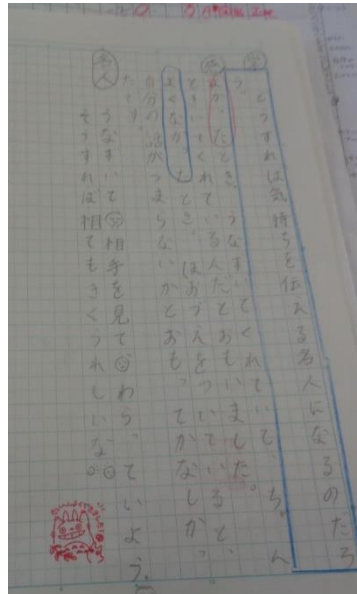
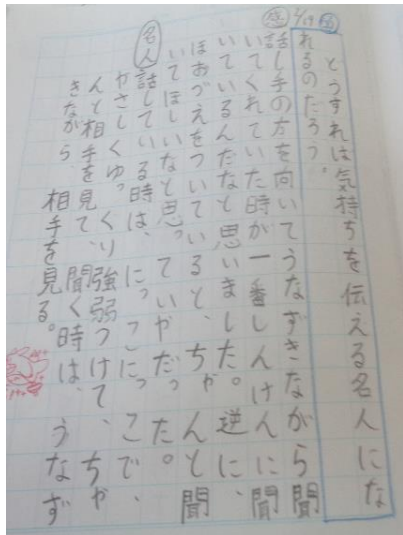
授業の実際

《単元のゴール》



最初の時間に単元のゴールを提示することで、学習へのイメージをはっきりと持つことができた。学習計画表によって、自分達の学習の流れをつかむことができ、見通しを持って活動できるようになった。

《ワークシート・ノート》

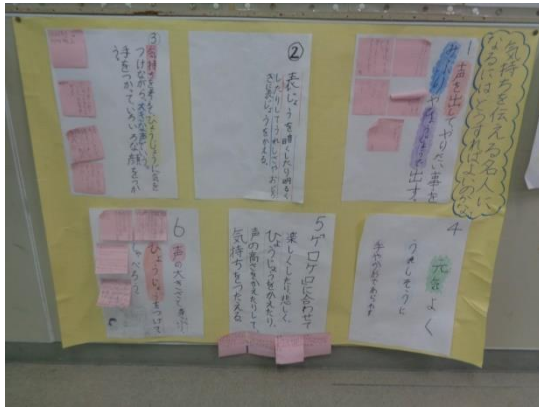


ペア活動後、話し方や聞き方について自分なりの感想・考えを書いて伝え合うことで、自分と同じ考えや違う考えに気付くことができ、学習を深めることができた。

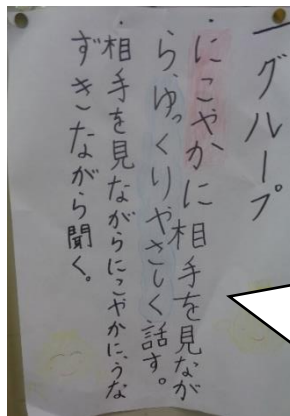
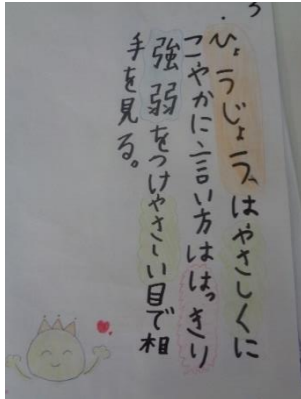
《話し合いの様子》



「当てっこゲーム」は、ペアで確実に自分の表情を画像で見てもらうことで気軽に意見を言い合えるようにした。「キャッチコピー」を考える際には、付箋を使って皆の意見をまとめてより良い言葉をつなげられるようにした。

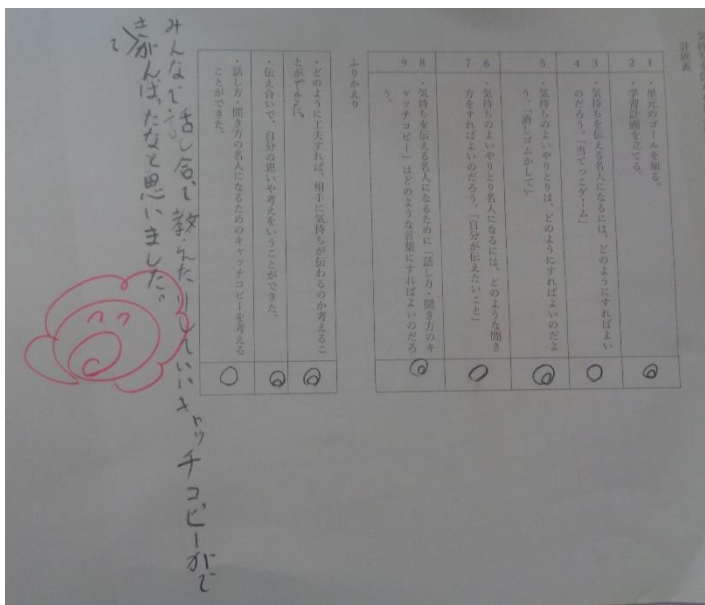


映像での「当てっ
こゲーム」終了時、
グループで、気持ち
を伝える名人にな
るためのキャッチ
コピーを話し合い
によって決定した。



気持ちを伝える名人になるた
めに
話し方・聞き方キャッチコピ
ーを
グループの話し合いによって決
定した。上記の一回目よりも、学
習経験を積んでいるため、話し
合いも時間を掛けてより良い考
えをまとめようとする意識が高
くなり話し合うことができた。

《児童の振り返り》



児童にとって、ゴールである「気持ち
を伝える達人になるために話し方・聞き
方キャッチコピーをつくらう」という取
り組みは、毎回わくわくした表情で活動す
ることができた。グループでの話し合いの
場面でも今回の学習で身に付けたことを
実践しており、より良い話し合い活動
ができていて、成果が表れていた。

<成果>

- ゴール提示によって、自分たちがどのように取り組めば良いのかイメージすることができた。
- タブレットで、伝えたいことを映像化することで、自分でも確かめや修正をすることができたので、ジェスチャーよりも、より良く伝える根拠について自分の考えを明確にすることができた。
- 受け答えのゲームでは、自分の生活経験の中で起こりえない場面も演技することで、聞く側の態度の大切さに気付くことができた。
- ペアでの伝え合いで、課題に対して考えたことを、相手に一対一で伝えることで自信をもって言うことができた。
- 話し手の発言が終わった後には、「いいです。OK!」拍手～という認め合いを日頃からどの学習でも行っているので、温かい雰囲気がつくれていて良いと思った。
- グループでの伝え合いで、付箋を使うことで皆の意見を共有することができ、話し合いがスムーズに進み、一つの意見にまとめることができた。
- 動作化することで、今まで気付かなかったことも発見して、進んで発言したり、相手の意見もよく聞いたりすることができ、成果となっていた。

<課題>

- 考えをもつ場については、教員側の思慮が大きく関わってくることであったので、これからも工夫が必要であると思う。
- 伝え合いの場の工夫はできても、自分の意見を進んで発表するためには、仮説①の素地ができていないと進んで発表とはならないので、自分の考えをいかに明確に持たせるのがとても重要である。

第5学年 研修の記録

単元名 お気に入りのまんがの面白さを伝えよう
(教材名) まんがの方法

《仮説①に対する手立て》

○単元のゴールを見せる

単元の始めに、ゴールで作成する物の見本である「お気に入りのまんがカード」を提示し、児童が見通しを持てるようにした。お気に入りのまんがの面白さを伝えるためには、どのような学習（課程）が必要なのか話し合い、学習計画を作った。

《仮説②に対する手立て》

○伝え合いの内容の精選

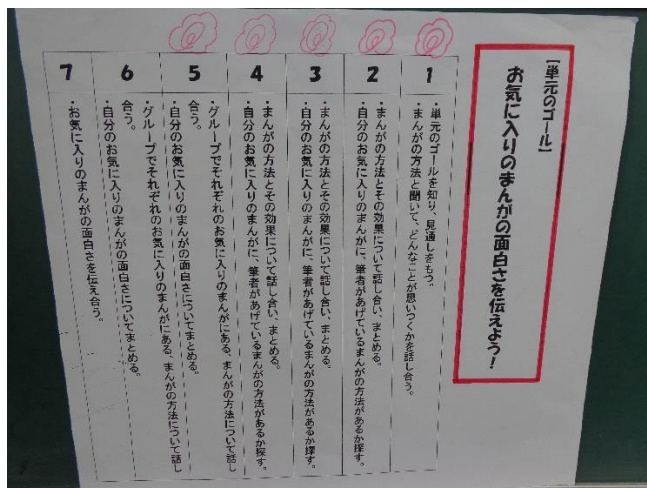
友達のまんがから面白さを見つけて話し合う際には、友達が見つけていないまんがの方法を中心に話し合いを行った。見つけられている場合は、多くのまんがの方法が使われているページについて話し合いを行った。

○伝え合いの形態の工夫

伝え合いは、3～4人のグループで行い、全員が伝える活動ができるようにした。伝え合いを2回実施することで、友達からの意見を聞く機会を増やした。

授業の実際

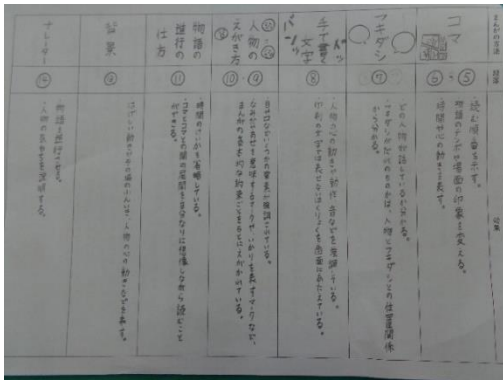
《単元のゴール》



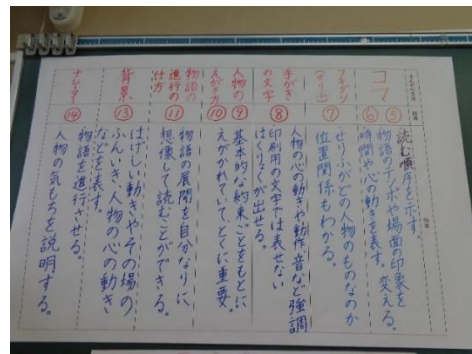
1次の時に単元のゴールを提示することで、学習のイメージをはっきりと持つことができたり、自分で作ることに意欲をもって取り組んだりすることができていた。学習計画表によって、学習の流れをつかむことができ、見通しをもって活動できていた。

《ワークシート・ノート》

児童



教室掲示



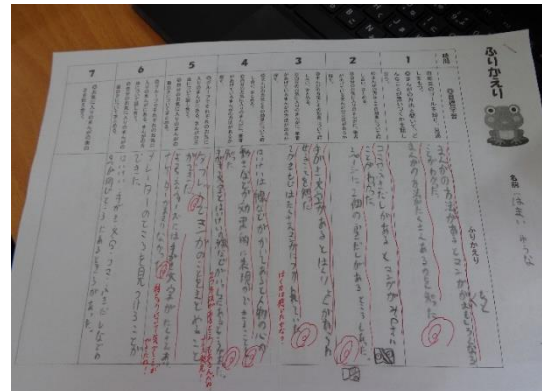
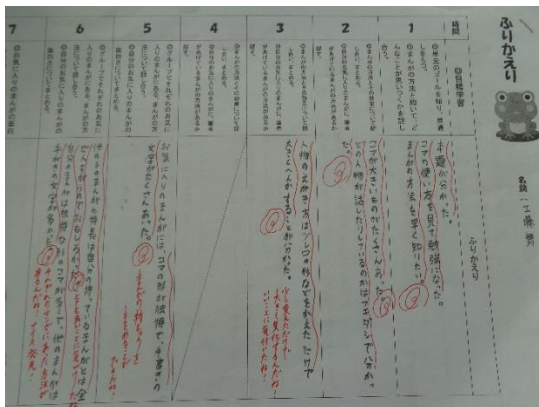
教科書から7つのまंगाの方法とその効果についてまとめた。1人で考えたあと、グループで話し合いをとおして確認することで、低位の児童も自信をもって書くことができていた。

《話し合いの様子》



《児童の振り返り》

自分がお気に入りのまंगाから方法を見つけて貼った付箋とは違う色で、友達のまंगाから新たに見つけて貼るようにした。友達が見つけていない(見つけられなかった)まंगाの方法を中心に話し合うことで、友達から新しい発見を見つけることができていた。自分のまंगाと同じ特徴や違う特徴に気付くことができ、学習を深めることができた。



毎時間自分の言葉で振り返りを行うことで、学習を振り返る習慣が付き、最初はあまり書けなかった低位の児童もすらすらと文章で書くことができるようになっていた。友達の発言から気付いたことや次の学習で意識したいこと、学んだことによって出てきた疑問などを書くことができていた児童もいた。